

# 第40章

## 3 ニーファイ 8 - 11 章

### はじめに

天の御父が語られた証<sup>あかし</sup>について熟考する。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」(3 ニーファイ 11:7) 御父がこのように言われ、イエス・キリストが御姿<sup>みすがた</sup>を現されたのは、モルモン書の中でも頂点となる出来事である。もし、その現場に自分が居合わせたとしたら、どのように反応しただろうか、思い描く。御子が次のように宣言するのを聞いたとしたらどのように感じただろうか、想像する。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。」(3 ニーファイ 11:10) イエス・キリストが現実におられることについて霊的かつ物理的な証を受けた人々の生活にもたらされた影響について考える。

神の声をこの民は何度か聞いた。3 ニーファイ 8 - 11 章を読み、主が何を教えられたか探す。神の声を認識し、神のメッセージに従う自分の能力について考える。

### 注解

#### 3 ニーファイ 8:1 イエスの御名<sup>みな</sup>によって奇跡<sup>あかし</sup>を行う

・ニーファイは次のように指摘している。「自分の罪惡からことごとく清められなければ、イエスの名によって奇跡<sup>あかし</sup>を行える人はだれもいなかった。」(3 ニーファイ 8:1。教義と聖約 121:36 図も参照)。

以下は、管理ビショッププリックで奉仕していたころにボン・J・フェザーストーン長老が語った話である。神権者がいつも清さを保つ必要性について分かりやすく説明している。

「人は罪を隠すことができません。神を欺きながら、主の聖なる神権を保持し、なおかつ主の僕であるかのように振る舞うことはできません。

わたしは亡くなった息子を両腕に抱き、次のように宣言した立派な男性を知っています。『イエス・キリストの御名と聖なるメルキゼデク神権の権能により、あなたに生きよと命じる。』すると亡くなった息子は目を開けたのです。

この立派な兄弟が、数日前にボルノグラフィーを見ていたとしたら、あるいは何であれ同種の罪にかかわっていたとしたら、恐らくそのような奇跡<sup>あかし</sup>を行うことはできなかったことでしょう。神権を働かせるためには、清い器がなければならないのです。」(Conference Report, 1975 年 4 月, 100)

・十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、神権による病人の癒<sup>い</sup>しを行ったからといって、必ずしも奇跡<sup>あかし</sup>的な出来事が起こるわけではないが、ふさわしい神権者のみが

キリストの御名によって奇跡<sup>あかし</sup>を行うことができると説明している。だからこそ神権者は自らを清く汚れない状態に保たなければならないのである。「さて、アロン神権あるいはメルキゼデク神権を受けている若い友人の皆さん、すべての祈りが直ちにこたえられるわけではなく、神権により宣言したからといって必ずしも蘇生<sup>みこころ</sup>や生命の維持が自由にできるとはかぎりません。神の御心に添わないときもあります。しかし、若人の皆さん、皆さんはいずれ経験するでしょう。恐怖に駆られ身の危険さえ感じるときに、信仰と神権の力を最大限に駆使し、天からの導きをできるかぎり求めなくてはならない時が来ます。アロン神権者の皆さんは、長老に聖任された者がメルキゼデク神権を行使するのとまったく同じ方法で神権<sup>みこころ</sup>を行使することはありません。しかし、すべての神権者は神の御手の器でなければなりません。そしてそうあるために、ヨシュアが述べたように、『あなたがたは身を清め』なければなりません〔ヨシュア 3:5〕。行動するための備えをし、行動するにふさわしい者とならなければなりません。」(『リアホナ』2001 年 1 月号, 47 参照)

#### 3 ニーファイ 8:6 - 19 自然の大変動<sup>あかし</sup>がキリストについて証する

・「全地でこれまでにまったく知られていないような」「激しくすさまじい暴風雨」が恐ろしい自然破壊をもたらした(3 ニーファイ 8:6 - 7)。このような自然の大変動はイエス・キリストがエルサレムで十字架につけられたことを証するアメリカ大陸におけるしるしだった(1 ニーファイ 19:10 - 12; ヒラマン 14:20 - 21 参照)。現代における自然の大変動の中には、再臨が近づいていることを示唆<sup>しき</sup>しているものもある。



十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、再臨のしるしの一つとして大地震の増加を挙げている。「再臨のしるしは周囲の至る所に見られ、その頻度と激しさは増してい

るように思われます。例えば、『2004 年度世界年鑑』(The World Almanac and Book of Facts, 2004 年)の大地震リストによると、1980 年代と 90 年代における地震の回数は、1960 年代と 70 年代の 2 倍になっています(189 - 190 ページ参照)。今世紀最初の数年間では、この傾向にさらに拍車がかかっています。ここ最近、世界各地を襲った注目すべき洪水や津波、ハリケーン、台風、猛吹雪のリストを見ても、同じような増加が見られます(188 - 189 ページ参照)。報告基準の変化により 50 年前との比較は除外してよいとしても、過去数十年間における自然災害の増加傾向は恐ろしい前触れと言えます。』(『リアホナ』2004 年 5 月号, 7)

### 3 ニーファイ 8:23 三日間の暗闇<sup>くらやみ</sup>

• 三日間の暗闇は「世の光であり命である」イエス・キリストの死を象徴していた(3 ニーファイ 11:11)。モルモンは三日間の暗闇は救い主の死に関して与えられる「しるし」であると強調した(1 ニーファイ 19:10; ヒラマン 14:27; 3 ニーファイ 8:23 参照)。「大きな嵐<sup>あらし</sup>」(3 ニーファイ 8:5)が 3 時間続いた結果、どのような被害がもたらされたか説明した後で、モルモンは完全な暗闇をそのときに成就したしるしの一つとして記録した(3 ニーファイ 10:14 参照)。暗闇はあまりにも深かったため、「光はまったく存在することができ[なかった。]」(3 ニーファイ 8:21)この暗闇の間、世の光であるイエス・キリストの肉体は墓に横たえられた。キリストが死を克服し復活された日に、光がアメリカの人々に戻った。この光は死と暗闇に対するキリストの勝利を表していた(3 ニーファイ 10:9 - 11 参照)。

#### 3 ニーファイ 8:24 - 25

生存者はこの恐ろしい破壊の理由としてどのようなものを挙げたか。それは現代にどのように当てはまるか。

### 3 ニーファイ 8:24 - 25 預言者を拒むことによって苦しみもたらされる

• 古代とまったく同様、今日でも預言者<sup>こんにち</sup>を拒めば苦しみを受けることになる。大管長会の N・エルドン・タナー管長(1898 - 1982 年)は、救い主の死に続いて起こった破壊と、現代の人々が自らの選<sup>おもて</sup>びで預言者に従わないことで被る破壊がもたらす苦しみを比較している。

「今日の世の人々は、神の預言者の言葉を拒んでいます。人々は戦争を繰り返していますが、そのことで嘆き悲しむ出来事が地の面<sup>おもて</sup>を覆っていると言えるのではないのでしょうか。

大勢の人々が嘆き悲しんでいるのは、若人が義の道をそれで、アルコールやたばこ、幻覚剤、その他禁じられたものに出した結果苦しみに陥り、悲劇を被っていることなのではないでしょうか。現在の社会に存在している不法行為の結果として、いかに多くの人々が悲しんでいることでしょうか。わたしたちは、姿を消した古代文明のようにならないために、過去の歴史から得た教訓を心に留める必要があります。

キリストはこのことを古代のニーファイ人に告げられ[たのです]。』(『聖徒の道』1975 年 8 月号, 373 参照)

### 3 ニーファイ 9:14 「わたしのもとに来」なさい

• イエス・キリストは約束しておられる。「わたしのもとに来る者は幸いである。」(3 ニーファイ 9:14)

ジェフリー・R・ホランド長老は、この招きにどのような意味あり、それがわたしたちの生活にどのように当てはまるか説明している。「[キリストは]愛を込めて『わたしについてきなさい』とおっしゃるのです。どこへ行くにしても、まず来て、わたしのすることを御覧なさい。わたしに学びなさい。わたしがどこで、どのように時間を使うかを御覧なさい。わたしに学びなさい。わたしとともに歩き、語り、そして信じなさい。わたしの祈りに耳を傾けなさい。そうすれば、あなた自身の祈りに対する答えを見いだすことでしょう。神があなたがたの魂に休みを与えてくださることでしょう。わたしに従ってきなさい。』(『聖徒の道』1998 年 1 月号, 73)

### 3 ニーファイ 9:19 - 20 犠牲にかかわる戒めの変更

• 動物の犠牲をささげるという戒めは最初にアダムに与えられた。動物の犠牲の目的は人々の心を救い主の究極の犠牲に向けることだった。忠実な人々は、動物の犠牲は神の御子が御自身の血を「大いなる最後の犠牲」としてささげた後に終わると教えられた(アルマ 34:10)。アミュレクはイエス・キリストの贖罪<sup>しよくざい</sup>の後、動物の犠牲はもはや要求されないと説明している。「そのときに、血を流すことは終わるであろうし、また、やめなければならない。それで、モーセの律法が成就するのである。……そして、この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので、まことに、これは無限にして永遠の犠牲である。」(アルマ 34:13 - 14) イエス・キリストのささげ物が完成した時点で、神の声はモルモン書の人々にこう宣言している。「わたしはこれから、あなたがたの犠牲と燔祭<sup>はんさい</sup>を受け入れない……。」(3 ニーファイ 9:19)

• ただし、動物の犠牲と燔祭は「取りやめ」なくてはならないものとされたが(3 ニーファイ 9:19)、主は犠牲の律法はおやめにならなかった。十二使徒定員会の D・トッド・クリ

ストファーソン長老は、3 ニーファイ 9:20 を引用し、<sup>こんにち</sup>今日において、主は異なる性質の犠牲を求めておられることを説明している。

「救い主は、今後は動物の燔祭は受け入れないと言われました。現在主が受け入れられる贈り物や犠牲は『打ち砕かれた心と悔いる霊』です〔3 ニーファイ 9:20〕。……打ち砕かれた悔い改めの心、そして悔いて従順な霊を贈り物としてささげることができます。つまりその贈り物とは自分自身、今の自分と将来の自分です。

皆さんには清くない思いやふさわしくない思いがありますか。もしもそれを捨ててなら、救い主への贈り物になります。良い習慣または性質が欠けていますか。それを取り入れ、人格の一部とするなら、主への贈り物になります。」(『リアホナ』2004 年 5 月号, 12)

### 3 ニーファイ 9:20 「彼らはそれを知らなかった」

• エズラ・タフト・ベンソン大管長 (1899 – 1994 年) は、霊的に成長しているにもかかわらず、自らのかすかな成長に気づかない人が大勢いると説明している。「〔末日聖徒には〕神に近づいているという意識はほとんどありませんが、日々主に近づくための歩みを続けています。善と奉仕、献身の生活を静かに送っています。彼らは『火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった』と主に言われたレーマン人に似ています (3 ニーファイ 9:20, 強調付加)。」(『大いなる改心』『聖徒の道』1990 年 3 月号, 7 参照)

• 十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、同じ聖文を引用し、聖霊の賜物が本来あるべき姿で認識されていないのではないかと懸念を表明<sup>たまもの</sup>しており、末日聖徒に聖霊の賜物を培うように奨励<sup>みたま</sup>し、御霊を認識する方法について助言している。

「わたしたちの中には、主が次のように語られた人々があまにも多くいます。『打ち砕かれた心と悔いる霊をもって……〔来た者が〕改心したときに……火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。』〔3 ニーファイ 9:20, 強調付加〕

想像してみてください。『彼らはそれを知らなかった』のです。賜物を受けていながら、よく分からずにいる人は珍しくありません。

……騒がしい世にあっても、御霊の促しへの注意をおろそかにするほど奔走し、多忙を極めるようであってはいけません。」(『リアホナ』2000 年 7 月号, 10)

### 3 ニーファイ 10:5 – 6 「めんどりが羽の下にひなを集めるように」

• ひなを集めるめんどりと民を集める主を比較すると興味深い洞察が生まれる。めんどりはひなのことを気づかい、ひなを守るためには命をも犠牲にする。危険の恐れがあると、羽の下にひなを集めて保護する。それと同様に、主は民、イスラエルの家を愛しておられる。民のために命を差し出され、民を守り養うために民を集めようとされる。しかし、幾度となくイスラエルは自らの選<sup>あかし</sup>びで主を捨てた。



大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、3 ニーファイ 10:5 – 6 について触れ、救い主<sup>あかし</sup>は御自分のもとに来ようと努力している人を助けられると証している。

「救い主は幾度となく、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしたちを集めようと言われました。主はまた、柔和な心と主への信仰をもって主の御前<sup>みまへ</sup>に行き、『十分に固い決意をもって』悔い改めなければならない、とおっしゃっています〔3 ニーファイ 10:6〕。

そのように行う一つの方法は、主の教会で聖徒たちとともに集まることです。たとえ難しいと感じても、集会に出席してください。そう決意していれば、主は実行する力を得られるよう助けてくださいます。」(『リアホナ』2004 年 5 月号, 18)

### 3 ニーファイ 10:12 「預言者たちを受け入れた人々」

• 安全は預言者に従うときにもたらされることが多い。「預言者たちを受け入れた」ニーファイ人は大きな破壊から守られた (3 ニーファイ 10:12)。十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、ニーファイ人と同様、わたしたちも安全、平安、繁栄、そして幸福を見いだしたいと望むならば、預言者に従わなければならないと教えている。「神の預言者がわたしたちに与えられているのは、とても大きな恵みです。預言者を通して与えられる主の御言葉<sup>みことば</sup>に耳を傾けるならば、わたしたちには偉大ですばらしい祝福が与えられます。……教会の預言者の言葉を通して示される主の勧告を聞いたなら、わたしたちは前向きに、即座に従う必要があります。……預言者の勧告に従うとき、安全と平安、繁栄と幸福がもたらされることは、歴史から明らかです。」(『リアホナ』2001 年 7 月号, 80)



・ボイド・K・パッカー会長は、祝福は預言者に従う人々にもたらされると証し、預言者を拒むことによって生じる結果について警告を与えている。

「カール・G・メーザーが若い宣教師の一行を率いてアルプスを越えようとしていたときの事です。頂上に着いて後ろを振り返ってみると、棒がずっと1列に雪の上に差しており、危険な氷河の方に立ち入らないようにしてありました。

彼は宣教師たちを休止させて並んでいる棒の方を指し、こう言いました。『兄弟たち、これが神権だよ。わたしたちと同じように何でも棒だが……どういう役割を果たしているかが問題だ。棒が示している場所からそれると、道に迷ってしまうんだよ。』（アルマ・P・バートン、*Karl G. Maeser, Mormon Educator* [ソルトレーク・シティ：Deseret Book Co., 1953年], 22で引用)

完全な人は一人もいません。しかし教会はごく普通の人に導かれて前進するのです。

主はこう約束しておられます。

『そして、わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たちの声に聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。

しかし、もし彼らがわたしの声にも、わたしが任命したこれらの者の声にも聞き従おうとしなければ、彼らは……祝福されないであろう。』（教義と聖約124：45 - 46）

皆さんに証します。この教会の指導者たちは正当な権能を持つ人によって神より召されています。また、指導者たちがその権能を授けられ、教会の長たる者たちから正式に按手聖任を受けた人たちであることは教会員の知るところです。彼らに従うなら救われるでしょう。しかし彼らから離れるなら、間違いなく道に迷ってしまうでしょう。』（『聖徒の道』1985年7月号, 38）

### 3 ニーファイ 11:3 「声が聞こえた」

・ダリン・H・オックス長老は、「彼らの心を燃え上<sup>あかし</sup>がら」せた「小さな声」は音というよりはむしろ思いだったと教えている（3 ニーファイ 11:3, 強調付加）。「この聖句の『燃やす』という言葉は、平安や静寂といった思いのことを意味している。」（『御霊によって教え、学ぶ』『リアホナ』1999年5月号, 22）静寂とは温かさ、穏やかさ、平静さを意味する。

・ボイド・K・パッカー会長は、ニーファイ人が神の声を聞くために「耳を開」かなければならなかったように（3 ニーファイ 11:5）、わたしたちも御霊の穏やかな促しを感じるために

は注意を払う必要があることを説明している。

「聖典には、御霊の声は『耳障りな声』ではなく、『大きな声』でもなく、また、『雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもな』いと書かれています。むしろそれは『ささやきのよう、まったく優しい静かな声』で、それでいて『心の中まで貫』き、『心』を燃え上がらせ『る』ものです（3 ニーファイ 11:3；ヒラマン 5:30；教義と聖約 85:6 - 7）。エリヤが、主の声は風の中にも、地震の中にも、火の中にもなく、『静かな細い声』であると認めたときのことを思い起こしてください（列王上 19:12）。

御霊は、叫んだり、大きな手で揺すったりはしません。ささやきかけてくるのです。そのささやき方は、非常に静かで、ほかのことに気を取られていると、まったく気がつきません。（知恵の言葉がわたしたちに啓示されたことには何の不思議もありません。酒浸りの人や麻薬におぼれている人がそのような声を感じることができるでしょうか。）

時には強い訴え方をして、気づかせることもあります。しかし、ほとんどの場合、その静かなささやきに心を傾けていないと、御霊は離れ去ります。』（『主のとしび』『聖徒の道』1983年10月号, 38）

### 3 ニーファイ 11:5 - 7 「わたしの愛する子を見なさい」

・エズラ・タフト・ベンソン大管長は、天の御父の声を聞くという珍しい経験について語っている。

「世界の歴史を見ても、自分たちに語りかける父なる神の御声<sup>みこえ</sup>を実際に聞いた民はごくわずかです。彼らが天に目を向けていると、『天から一人の男の方が降って来られるのが見えた。この御方は白い衣を着ておられ、降<sup>くだ</sup>って来て群衆の中に立たれた。全群衆の目がこの御方に注がれたが、彼らは互いの間でさえ、あえて口を開こうとはしなかった。』（3 ニーファイ 11:8）

栄光ある、復活された御方、また、神会の一員であり、無数の世界の創造主、アブラハム、イサク、ヤコブの神が彼らの目の前に立たれたのです。』（『聖徒の道』1987年7月号, 6）

### 3 ニーファイ 11:11 苦い杯

・大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007年）は、試練のときに救い主が示した次の模範は、わたしたちが自らの「苦い杯」に耐えるうえで助けとなると教えている。「多くの教会員は、自分のもとにきた苦い杯を飲むとき、その杯はほかの人から渡されたものだという誤った考えを持ちます。ナザレのイエスは、西大陸の民に語りかけた最

初の言葉の中で、御父から与えられた苦い杯について強く心に訴える話をしておられます（3 ニーファイ 11：11 参照）。どのような人にも、飲み込まなくてはならない苦いものがあるかもしれません。道にそれた子供を持つ両親は、言葉にならない悲しみを知るようになります。残忍な夫、あるいは思いやりのない夫を持つ女性は、毎日、心痛を味わいます。結婚していない教会員は、悲しみと失望を味わうかもしれません。しかしながら、苦い杯を飲んだ人が現状を受け入れ、一段と成長し成熟する時が来るものです。ハロルド・B・リー大管長はかつてこう言いました。『自己憐憫や自暴自棄で、正しいと分かっている道から外れることはやめましょう。』救い主は進むべき方向を定められました。わたしたちは霊と心において再び生まれなければなりません。』（「第二の誕生」『聖徒の道』1998 年 6 月号、3 - 4 参照）

### 3 ニーファイ 11：14 - 17 両手と両足とわきの傷跡

・復活された主はニーファイ人に御姿を現されたとき、御自分の両手と両足とわきの傷跡に触れるよう彼らに勧められた。彼らが主の復活の証人となることができるようにするためであった（3 ニーファイ 11：14 参照）。ジェフリー・R・ホランド長老は、イエス・キリストの肉体の傷はイエス・キリストが払われた犠牲のしるしであると教えている。



「どんなに暗い日々を送っているように思えようとも、世の救い主はそれよりもはるかに暗い日々を過ごされました。そして復活されたときにも、その暗い日々を思い起こすしるしとして、弟子たちのために、御自分の選びによって、本来なら完全に回復したはずの肉体から、手と足とわきの傷跡をそのままにしておかれたのです。その傷跡は、いわば、純粋で非の打ち所のない人々でも痛みを味わうことの象徴です。それはまた、この世で苦しみを受けても、神から愛されていないという意味ではないということの象徴とも言えます。あるいは、問題は必ず過ぎ去るものであり、幸せになることができるということの象徴とも言えるでしょう。わたしたちの人生という航海で舵を取ってくださる御方は傷跡をお持ちのキリストであることを生徒たちに思い出させてください。わたしたちを救すために受けられた苦しみの傷跡、愛と謙虚さを示す傷跡、従順と犠牲の傷跡を持っていらっしゃる御方です。」

主が来られるとき、わたしたちはまずこの傷跡によって主を見分けます。主は過去にもそうされたように、わたしたちを招き、傷跡に触れてみるようにおっしゃるかもしれません。たとえそのときまで思い出さなかったとしても、少なくともそのときには必ず、イザヤが語った言葉のとおり、神であるキリストがあのようななさったのは、全部わたしたちのためだったと思い出すことでしょう。すなわち、神は『侮られて人に捨てられ……悲しみの人で、病を知っていた。……彼はわれわれのことがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。』（イザヤ 53：3、5）」（「教え、宣べ伝え、癒す」『リアホナ』2003 年 1 月号、22）

### 3 ニーファイ 11：16 - 21 ホサナ

・「ホサナという言葉は、元々ヘブライ語で『おお、救いを与えたまえ』を意味する嘆願の言葉を音訳したものである。民が救い主に救いの道を教えてくださるよう望んでいたことは明らかである。したがって、主が即座に福音の基本的な原則と儀式を教えられても驚くには当たらない。』（ダニエル・H・ラドロー、*A Companion to Your Study of the Book of Mormon* [1976 年]、261 - 262）

### 3 ニーファイ 11：21 - 27 バプテスマの大切さ

・ニーファイ人の間でバプテスマの方法に関して何らかの争いがあったようである。主はこの儀式をどのように行うべきか明らかにされた。ボイド・K・パッカー会長は、バプテスマの大切さについて説明し、この神聖な儀式を変更することのないように警告している。

「罪の赦しのために水に沈めるバプテスマは福音の第一の儀式です。バプテスマは水に沈める形で行わなければなりません。なぜならそれが肉体の死、すなわち墓から出て来ることと、霊の死からの贖いに必要な清めの両方を象徴しているからです。」

……計画によれば、バプテスマは単にイエス・キリストの教会に入ることを目的としているわけではありません。最終的に神のみもとへ帰ることを可能にする霊の再生を始めるために行うものがバプテスマなのです。

わたしたちがバプテスマの意味を真に理解するならば、この神聖な儀式を軽んじたり、その方法を変えたりすることはないでしょう。……聖餐を通じてわたしたちは聖約を更新します。』（*Our Father's Plan* [1984 年]、39 - 40）

## 3 ニーファイ 11:29 𠩺

救い主はなぜ争いを避けるように勧められるのか。

## 3 ニーファイ 11:28 - 30 𠩺 争いを避ける

• ヘンリー・B・アイリング管長は、神の御霊が人を争いに導くことはないということをわたしたちに理解させてくれる。「人々が御霊とともにいると、調和を期待することができます。御霊はわたしたちの心に真理の証を告げて、その証を分かち合う人々を一つにします。神の御霊は決して争いを起こしません（3 ニーファイ 11:29 参照）。また、不和のもとになる差別感情をもたらしません（ジョセフ・F・スミス、*Dospel Doctrine*, 127 参照）。むしろ平安と一体感へと導きます。心一つにするのです。一致した家族、一致した教会、平和な世界は、人々が心一つにすることによって生じるのです。」（『聖徒の道』1998 年 7 月号, 71 参照）

• トーマス・S・モンソン大管長は、争いを避けることによってどのような祝福がもたらされるかを示す話を紹介している。3 ニーファイ 11:28 - 30 𠩺を読んだ後で、次のように語っている。

「わたしにとって英雄となっている二人の男性の話をして、今日の話を閉じることになります。二人の勇気ある行動は全国規模ではなく、ユタ州ミッドウェーとして知られている穏やかな溪谷でなされたものです。

昔、ロイ・コーラーとグラント・レマンドは、教会の様々な召しを受けて一緒に働きました。二人は大の仲良しでした。二人は農夫であり、酪農家でもありました。ところがある誤解がもとでちょっとした仲たがいをしてしまいました。

後にロイ・コーラーが癌のために激しい苦痛に見舞われ、余命いくばくもなくなったとき、妻のフランシスとわたしはロイと奥さんを訪ね、ロイに祝福を与えました。その後話をしているとコーラー兄弟が言いました。『わたしの人生で最もうれしかった思い出の一つを話させてください。』彼はグラント・レマンドとの間の誤解とそれに続く不仲のことを述懐し始めました。そしてこう言いました。『わたしたちは仲たがいしたままでした。』

『そして、』ロイは続けました。『冬が来るのに備えて干し草を積み上げる作業をしていたある夜の事です。自然発火によって干し草に火がつき、干し草と納屋と、その中のすべてを燃やし尽くしてしまいました。わたしは茫然自失といった有様でした。もう、どうしたらいいかまったく分かりませんでした。暗い夜で、明かりといえば、火事跡の燃えさ

しだけでした。そのとき、道路をこちらに向かって来るものがありました。グラント・レマンドの家の方角からです。重い消防道具を積んだトラクターのライトでした。この『救助隊』が敷地に入って来て、涙に暮れるわたしを見つけたとき、グラントがこう言いました。『ロイ、焼け跡の片付けが大変だな。息子たちを連れて来たからな、さあ、始めよう。』皆はすぐに作業に取りかかりました。こうして、つかの間、二人を引き離していた隠れたくさびは永久に消え去ったのです。彼らは夜を徹して働き、次の日も働きました。町の大勢の人たちが一緒に手伝ってくれました。

ロイ・コーラーはこの世を去り、グラント・レマンドも年老いました。二人の息子さんたちは同じワードのビジョプリックとともに奉仕しました。わたしはこの二つのすばらしい家族を結ぶ友情のきずなを真実の宝物として心に留めています。」（『リアホナ』2002 年 7 月号, 22 参照）

## 3 ニーファイ 11:28 - 40 イエスは御自分の教義について語られた

• 「わたしの教義」という表現は 3 ニーファイ 11:28 - 40 で 8 回用いられている。主は御自分の教義は悔い改めとバプテスマであると述べておられる。2 ニーファイ 31 章にも同じような表現が用いられているが、ここでニーファイは、かなりの時間をかけて、自分が「キリストの教義」と呼んでいるものについて説明している。ニーファイは、キリストの教義として信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物、聖文学習、そして最後まで堪え忍ぶことを挙げている。後に主はモルモン書の民に御姿を現されたときに、同じ原則を繰り返され（3 ニーファイ 27 章参照）、それらを「わたしの福音」と呼ばれた。これらの原則はわたしたちに信仰箇条 4 条を思い起こさせる。「わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、第三に罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための按手であることを信じる。」





## 理解を深めるために

- 完全な暗闇が救い主の死を表す適切なしるしや象徴であるのはなぜだろうか。
- 主はわたしたちを御自分の群れに集めるためにどのような働きかけをしてこられただろうか。
- 人はどのようにして「打ち砕かれた心」と「悔いる霊」を持つことができるだろうか（3 ニーファイ 9：20）。
- 「争いの心」（3 ニーファイ 11：29）と、意見の相違を解決するための話し合いはどう違うのだろうか。意見が違っても争わないためにはどうしたらよいだろうか。

## 割り当ての提案

- 預言者を受け入れた人々だけが、主の降臨に伴って起こった破壊から救われた。預言者や十二使徒定員会の会員が最近の総大会の部会で語った教えを書き出す。自らの

生活でそれらの教えをどのように実行するか計画する。

- ニーファイもレーマン人サムエルも、イエス・キリストがエルサレムで亡くなった直後にアメリカで起こる荒廃を詳細にわたって預言した。2 ニーファイ 26：3－9 およびヒラマン 14：20－27 の預言と 3 ニーファイ 8：5－23 の成就を比較する。
- 歴史上、天の御父が語りかけるときの声を実際に聞いた人はほとんどいないだろう。イエス・キリストのバプテスマに際して（マタイ 3：17；マルコ 1：11；ルカ 3：22 参照）、変貌の山で（マタイ 17：5；マルコ 9：7；ルカ 9：35 参照）、ニーファイ人に対して（3 ニーファイ 11：7）、そして預言者ジョセフ・スミスに対して（ジョセフ・スミス—歴史 1：17）天の御父が語られた言葉を比較する表を作る。それぞれの言葉にどのような意味があるか説明する。

# 第 41 章

## 3 ニーファイ 12 - 14 章

### はじめに

地上で教導しておられたとき、イエスは山上の垂訓を説かれた。それは十分に固い決意をもって完成に向かって努力するよう弟子たちを励ますためだった。復活の後、イエスは西半球でモルモン書の民に御姿を現され、同じ説教をされた。

この説教に含まれている福音の標準は、近代の啓示を通して、わたしたちの時代においても再確認されてきた。大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007 年）は次のように述べている。「山上の垂訓における救い主の深遠なメッセージは、わたしたち全員にとって『燃えるしば』と同じくらいに貴いものです。『まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求めなさい。』（ジョセフ・スミス訳マタイ 6:38。マタイ 6:33 も参照）このメッセージを心と霊に貫き通す必要があります。わたしたちは、このメッセージを受け入れるとき、現世において何を支持し、擁護していくかを決めているのです。」（『リアホナ』2004 年 5 月号, 67）

これらの神聖な原則をモルモン書から学ぶことによって、わたしたちはいつも忠実であり、完成への道から離れないために役立つ洞察を得ることができる。

### 注解

#### 3 ニーファイ 12 - 14 章 人生の青写真

• 聖書とモルモン書に含まれている山上の垂訓は、主が示された完成への青写真である。この垂訓について、ハロルド・B・リー大管長（1899 - 1973 年）はこう語っている。「キリストがこの世に<sup>あがな</sup>来られたのは、人類の罪を贖うためだけでなく、神の律法の完全な標準と天の御父に対する従順について世の人々に模範を示すためでもありました。主は山上の垂訓において、御自分の完全な属性についての幾らかの啓示、あるいは実践に裏打ちされた言葉ばかりが記された自叙伝と言ってもよいものをわたしたちに与え、そうすることによってわたしたち自身の生活の青写真を与えてくださったのです。」（*Decisions for Successful Living* [1973 年], 55 - 56）

#### 3 ニーファイ 12:1-2 使徒の言葉に耳を傾ける

• 救い主は、ニーファイ人の中から十二人の弟子を召され、彼らに力と権能を授けられた。十二人の弟子に従うことがどれほど大切かを強調した後で、ニーファイ人に説教を始められた。近代の啓示も主の選ばれた僕に<sup>しもべ</sup>従うことによって安全と祝福がもたらされることを強調している（教義と聖約 1:38 ㊦; 21:6 参照）。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、大管長会と十二使徒定員会に従うことがなぜ



ジェフリー・R・ホランド、© IRI

それほどまでに大切なのか説明している。

「あらゆるときに、特に逆境や危険のときに、子供のように当惑し、方向を見失い、幾分恐れを感じるときに、人間のよこしまな行いや悪魔の策略により、足もとをすくわれ、道をそれそうになるときに、教会の使徒と預言者という土台が祝福となります。現代のような時代のために、大管長会と十二使徒定員会は『預言者、聖見者、啓示者』の責任を神から授かり、皆さんから支持されています。……

……キリストを土台とするなら、いつも……守りが得られます。今体験している、またこの先ほとんどいつも体験するであろう危険の中にあっても、この世の嵐はわたしたちを滅ぼすことはできません〔ヒラマン 5:12 参照〕。」（『リアホナ』2004 年 11 月号, 7 参照）

#### 3 ニーファイ 12:1-2

この聖句をマタイ 5:1-2 と比較する。  
モルモン書の記録では何が付け加えられているか。

#### 3 ニーファイ 12:3-12 至福の教え

• 救い主の説教は至福の教えと呼ばれる宣言で始まる。これらは「……は幸いである」と宣言する一連の声明からなる（3 ニーファイ 12:1-11 参照）。至福は「幸運であること」「幸せであること」あるいは「祝福されていること」を意味する（マタイ 5:3）。ウェブスターの辞書でこの言葉は「この上ない喜びの状態」と定義されている（*Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, 第 11 版 [2004 年], 107）。このような言葉は聖徒がこの説教の教えを实践したときにもたらされる結果を表している。



『末日聖徒版聖書辞典』(LDS Bible Dictionary)の説明によれば、至福の教えは「高尚な霊的特質を構成する特定の幾つかの要素について述べている。その霊的特質が完全な状態で存在するときにはいつでも、それらの要素がすべて備わることになる。至福の教えは、それぞれの教えが別個のものではなくむしろ、互いに関連し合いながら進む形で並んでいる。」(“Beautitudes,” 620)『聖句ガイド』は次のように補足している。至福の教えは「一つ一つの教えがそれぞれに、前に述べられている教えを基にして組み立てられている。」(「至福の教え」122)



ハロルド・B・リー大管長は、至福の教えは「完全な生活への憲章」を具体的に表現していると教えている。「そのうちの4つは自分自身に〔関係があり〕」、残りの4つは「人間社会の人とのかかわりに〔関係がある〕。」(Decisions for Successful Living [1973年], 57, 60) 以下の表はその関係を明らかにしている。

自分自身とのかかわり	人とかかわり
心の貧しい人々は、幸いである。	柔和な人々は、幸いである。
悲しむ人々は皆、幸いである。	<sup>あわ</sup> 憐れみ深い人々は、幸いである。
義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。	平和をつくり出す人々は皆、幸いである。
心の清い人々は皆、幸いである。	わたしの名のために迫害される人々は皆、幸いである。

### 3 ニーファイ 12:3 「わたしのもとに来る心の貧しい人々は、幸いである」

• ハロルド・B・リー大管長は、心の貧しいという言葉の意味を次のように定義している。

「主はこう言っておられます。『こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。』(マタイ 5:3) 言うまでもなく『心の貧しい人』とは霊的に乏しい人、霊的

な貧しさを痛感して助けを切望している人を意味します。……

もし完成を目指そうとするならば、完成への道を上り始めようとするならば、わたしたち一人一人が、一度次のように自問してみなければなりません。『自分にまだ欠けているものは何か。』(Stand Ye in Holy Places [1974年], 210)

• 「わたしのもとに来る」(3 ニーファイ 12:3) という言葉は、山上の垂訓の新約聖書版には見当たらないが、救い主の教えを明らかにしてくれる。心が貧しいことは、キリストのもとに来るならば、幸いであるということである。救い主は、3 ニーファイ 12:2 で、どのようにしてキリストのもとに来るきっかけを作るのか述べておられる。「わたしのもとに来る」という言葉は、原則的に、その他の至福の教えにも当てはめることができる。慰められ(4節)、地を受け継ぎ(5節)、聖霊に満たされ(6節)、<sup>あわ</sup>憐れみを受け(7節)、神を見る(8節)ためには、「キリストのもとに来」なければならないからである。

救い主が御自分のもとに来ることについて説教をされたとき、3 ニーファイ 11:21 から 12:2 までに、バプテスマという言葉で 19 回口にしておられる。完全に「キリストのもとに来る」ことには、救いの儀式を受け入れることも含まれている。

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994 年)は、キリストのもとに来るためのその他の方法について述べている。「福音を宣言することによって、生活をまっさきものとすることによって、そして死者を贖うことによってすべての人がキリストのもとに来るように招待するのです。わたしたちがキリストのもとに行くことができれば、自分、家族、そして天の御父の子供たち、すなわち生者、死者を問わず、すべての人を祝福することになるでしょう。」(『聖徒の道』1988 年 6 月号, 90)

### 3 ニーファイ 12:4 「悲しむ人々は皆、幸いである」

• 七十人のスペンサー・J・コンディー長老は、至福の教えはどのようにして段階を踏んで進む教えと見なすことができるか説明している。「至福の教えは義にかなった生活を送るための教えだと見なすことができます。この教えは、段階を踏んで進む形になっており、『[キリスト]のもとに来る心の貧しい人々』(3 ニーファイ 12:3) という言葉で始まります。日の栄えに進む次の段階は、悲しむこと、特に、自分の罪のために悲しむことです。というのは、『神のみこころに添うた悲しみは、……<sup>すくい</sup>救を得させる<sup>くいあらた</sup>悔改めに導く』(2 コリント 7:10)。」(Your Agency, Handle with Care [1996年], 8)

### 3 ニーファイ 12:5 「柔和な人々は、幸いである」

• スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、柔和さは弱さとは違うと説明している。

「主が柔和でへりくだり謙遜<sup>けんそん</sup>であられたことを考えると、謙遜になるためには、主が行われたことを行わなければなりません。悪を大胆に非難し、義の業を勇敢に推し進め、あらゆる問題に勇気を持って立ち向かい、自分を見失ったり、自分の置かれた環境に左右されたりすることなく、自分がどう評価されるかを気に留めないことです。

謙虚さは、見栄、思いあがり、うぬぼれとは無縁です。弱さ、ためらい、卑屈とも無縁です。……

謙遜そして柔和とは、正しくは、弱さではなく徳を意味します。常に気持ちが穏やかで激しい怒りや情動がないことを意味します。……卑屈な服従とは違います。臆病やおびえとも違います。

どうしたら謙遜になれるのでしょうか。自分が依存していることをいつも思い起こさなければならないと思います。だれに依存しているのでしょうか。主です。どのようにして思い起こせばいいのでしょうか。真心から、常に、礼拝と感謝の気持ちを込めて祈ることです。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 [1982 年], 232 - 233）

### 3 ニーファイ 12:6 「義に飢え渴く」

• シェリー・L・デュー姉妹は中央扶助協会会長会で奉仕していたときに、望み（飢え渴くこと）と行動、すなわち望んだ結果を得るために働く能力の関係について説明している。「霊的な導きに耳を傾ける能力は、わたしたちがどれだけ進んでそれを学ぼうとするかということと密接にかかわっています。ヒンクレイ大管長はよくこのように語っています。『あることを成し遂げるために自分が知っている唯一の方法は、ひざまずいて神に助けを求め、それから立ち上がって働くことです。』御霊<sup>みたま</sup>の言葉を学ぶ究極の方法は、信仰を持ち、同時に熱心に努力することです。救い主はこのような教えられました。『義に飢え渴<sup>あか</sup>いている人々は皆、幸いである。彼らは聖霊に満たされるからである。』（3 ニーファイ 12:6、強調付加）飢え渴くとは霊的な努力をすることにはほかなりません。神殿における礼拝、いっそう聖くなるために悔い改めること、人の過ち<sup>よめる</sup>を赦し、自分の過ちの赦しを請うこと、心からの断食と祈り、これらはすべて、わたしたちに御霊を受けやすい状態<sup>みこえ</sup>をもたらしてくれます。霊的な努力は効果があり、主の御声を聞くための鍵<sup>かぎ</sup>となります。」（「わたしたちは独りではない」『リアホナ』1999 年 1 月号, 107）

### 3 ニーファイ 12:8 「心の清い人々」

• 十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老（1917 - 2008 年）は、心が清いという言葉の意味について次のように説明している。

「偽りが無いとは、心が清いことです。これは、キリストに真に従う者の一人に数えられるうえで、欠かせない特質です。……

偽りがなければ、わたしたちは正直で、誠実で、義にかなった人になります。これらはすべて神の属性であり、聖徒に求められるものです。正直な人は、公正で、自分の言葉に忠実で、正直に行動し、欺瞞<sup>ぎまん</sup>や盗み、詐欺、そのほかあらゆる不正行為をしません。正直は神のものであり、不正直は悪魔のものです。サタンは時の初めから偽りを語る者でした。正義とは、福音の律法や原則や儀式と調和した生活を送ることです。」（「偽りのない者」『聖徒の道』1988 年 6 月号, 85）

### 3 ニーファイ 12:9 平和をつくり出す人々

• 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老<sup>あかし</sup>は、平和をつくり出す人になるための究極的な源について証している。「『平和の君』[イザヤ 9:6] であるイエス・キリストのもとに来ることこそが、地上の平和と人々の友好への道なのです [ルカ 2:14 参照]。』（『リアホナ』2002 年 11 月号, 39）

• 十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915 - 1985 年）は、平和をつくり出す人になるための方法について次のように述べている。「平和をつくり出す人——文字どおり、完全な福音を信じ広める者だけが、この至福の教えの持つ完全な意味において、平和をつくり出す者である。福音は全人類への平和のメッセージである。神の子——真理への献身の結果、神の家族に養子縁組をされた者。そのような過程を経て、彼らは神の相続人となりキリストとの共同の相続人となる（ローマ 8:14 - 18; ガラテヤ 3:26 - 29; 4:1 - 7）。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1971 - 1973 年], 第 1 巻, 216）

### 3 ニーファイ 12:13 「地の塩」

• モルモン書の記録には、「地の塩」となることは教員が追求すべき目標であると記されている（3 ニーファイ 12:13）。モーセの時代に行われた燔祭<sup>はんさい</sup>の儀式で、塩は神との聖約を記憶にとどめ守るべきだということをわたしたちに思い起こさせるものだった（民数 18:19; 歴代下 13:5 参照）。同じような意味で、聖徒はこの末日において聖約を回復し守る手助けをするべきである。教義と聖約 101:39 - 40 には、「地の塩」と見なされるために何をしなければなら

ないかが記されている。

「地の塩」と見なされることには大切な意味がある。七十人会長会の一員として奉仕していたときに、カーロス・E・エイシー長老（1926 - 1999 年）は、そのことについて神権者に次のように説明している。

「『人々がわたしの永遠の福音に召され、永遠の聖約を交わすとき、彼らは地の塩、また人の味と見なされる。

彼らは人の味となるように召される。』（教義と聖約 101: 39 - 40, 強調付加）

味（s-a-v-o-r）という言葉は、味覚や、風味が良いという意味のほか、深みのある質を有し、高い評価を受けるに足る条件を備えているという意味が含まれます。……

ある世界的に有名な化学者の言葉によれば、塩は古くなくても味が変わらないということです。不純物が混ざったり汚染されたりした場合にのみ、塩は塩気を失ってしまうのです。同様に、神権の力も年とともに効力を失うことはありませんが、不純や汚染によりその効力は失われてしまいます。……

不純な思いを抱いて心を汚し、偽りを語って口を汚し、悪事に走って自己の持てる力を誤用する人は、『人の味』を失い、品格を落とすことになるのです。……

わたしは、特に若人の皆さんに『人の味』を守るための簡単な指針をご紹介します。それは、『清くないことを考えてはならない。真実でないことを語ってはならない。正しくないことを行ってはならない。』（マルクス・アウレリウス、'The Meditations of Marcus Aurelius,' *The Harvard Classics*, チャールズ・W・エリオット編、ニューヨーク：P. F. Collier and Son, 1909 年, 211 にて引用を参照）（『聖徒の道』1980 年 9 月号, 66）

### 3 ニーファイ 12:14 - 16 「あなたがたの光を……輝かせ」なさい

・十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は、個人的な経験について触れ、人々の光となることがどれほど大切かを強調しています。



「ニューヨーク州ロングアイランドで成長したわたしは、闇に包まれた外洋を航海する人々にとって光がどれほど大切かを理解していました。灯台が機能しなかったらどれほど危険なことでしょうか。灯台の明かりがともされなかった

としたら、どれほど大きな惨事を招くことでしょうか。

聖霊の賜物を持つわたしたちは、人々の光となれるように聖霊の導きに誠実に従わなければなりません。

『そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』（マタイ 5:15 - 16）

だれがわたしたちを頼ってくるのか、わたしたちには分かりません。救い主が言われたように、わたしたちは『彼らが立ち返って悔い改め、十分に固い決意をもってわたしのもとに戻って来るようにならない』と言いきれないからである。彼らがそうするならば、わたしは彼らを癒そう。だからあなたがたは、彼らに救いをもたらす者になりなさい。』（3 ニーファイ 18:32）（『リアホナ』2002 年 7 月号, 79）

### 3 ニーファイ 12:17 - 20, 46 - 47 モーセの律法はイエス・キリストによって成就された

・救い主がこの地上で教え導かれる時代まで、モーセの律法は千年以上の間、イスラエルの宗教と社会生活の基盤であった。ニーファイ人はこの律法が書き記された真鍮版を所有していた。また、ニーファイ人の預言者は、この律法を教え、守っていた。救い主は、ニーファイ人のもとを訪れたとき、この律法は自分によってすべて成就したと教えられた。しかし、ニーファイ人はモーセの律法が「廃〔された〕」あるいはすでに「むなしくな〔った〕」と考えてはならなかった（3 ニーファイ 12:17 - 18）。救い主はモーセの律法を「成就〔した〕」のであって「廃〔した〕」のではない。それはどういうことだろうか。モーセの律法には、道徳的な側面と儀式的な側面という二つの側面があった。

道徳的な側面には、「あなたがたは殺してはならない」「あなたは姦淫してはならない」といった戒めが含まれていた。イエス・キリストは、ニーファイ人に殺人や姦淫だけでなく、怒りや情欲、すなわち殺人や姦淫の原因となる心の状態をも避けるようにと教えられた（3 ニーファイ 12:21 - 30 参照）。したがって、より高い律法であるイエス・キリストの福音は、モーセの律法の道徳的な側面を発展させることによって律法を成就した。すなわち、この福音にはモーセの律法の道徳的な規範が含まれ、さらには、それらの規範が心の変化を求めるより奥深い福音の原則に組み込まれる形となったのである。

モーセの律法の儀式的な側面には、アビナダイが「勤め」や「儀式」と呼んだ動物の犠牲や燔祭に関する戒めが含まれていた（モーサヤ 13:30）。ニーファイ人の預言者は、モーセの律法のこれらの部分が、イエス・キリストの贖いの



犠牲を待ち望めるように人々を助けるためのものだということを理解していた（2 ニーファイ 25：24；モルモン書ヤコブ 4：5；モーサヤ 16：14 - 15 参照）。そのようなわけで、救い主の地上における召しが終わったときに、これらの待ち望むための儀式は成就した。なぜなら、将来起きると待ち望んでいた出来事がすでに起きて終了し、もはや待ち望む必要はなくなったからである。したがって、救い主は動物の犠牲と燔祭は「取りやめ」なければならず、その代わりに救い主に従う者は「打ち砕かれた心」と「悔いる霊」という「犠牲」をささげるようニーファイ人に教えられた（3 ニーファイ 9：19 - 20）。そこで贖罪<sup>しよくざい</sup>を待ち望んだ儀式に代わって、救い主は御自分の贖いの犠牲を振り返るための覚えの儀式、すなわち聖餐<sup>せいさん</sup>を設けられたのである（3 ニーファイ 18：1 - 11 参照）。

・ブルース・R・マッコンキー長老はこう述べている。「イエスは、モーセの時代の前、小神権の時代の前に人々が享受していた完全な福音を回復するために来られた。明らかに、イエスは御自身がモーセに啓示されたものを廃するために来られたのではなかった。それは大学教授が学生に積分を教えることで算数を廃止するようなものである。完全な福音を回復することで、イエスは準備の福音の条件を守り抜く必要性を満たしたのである。太陽がすでにありったけの輝きを放って昇っている以上、だれももはや月の明かりで歩く必要はなくなったのだ。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 第1巻, 219 - 220。スティーブン・E・ロビンソン, “The Law after Christ,” *Ensign*, 1983 年 9 月号, 68 - 73 も参照）

### 3 ニーファイ 12：19 「打ち砕かれた心と悔いる霊」

・十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つことの大切さについて証<sup>あかし</sup>している。「『贖いは聖なるメシヤを……通じてもたらされ』ます。それは、『打ち砕かれた心と悔いる霊』を持つすべての人のためにあり、『このような人々のためにしか、律法の目的は達せられない』からです〔2 ニーファイ 2：6 - 7, 強調付加〕。『打ち砕かれた心と悔いる霊』という絶対必要条件は、従順で、求めに容易に応じ、謙遜<sup>けんそん</sup>（すなわち教えを受けることができ）、進んで従うことの必要性を定めています。」（『聖徒の道』1997 年 7 月号, 65）

### 3 ニーファイ 12：22 「自分の兄弟に対して怒る者はだれであろうと」

・新約聖書は救い主の教えについて次のように説明している。「兄弟に対して〔理由もなく〕怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。」（マタイ 5：22）このテーマに関す

る救い主の教えは、「理由もなく」という言葉が消去されていることを除けば、モルモン書でも同じである。これはすなわち、怒りはすべて避けた方が良いことを示している。知られているうちで最古の写本によると、マタイ 5：22 に「理由もなく」という言葉は書かれていない点に留意すべきである（ダニエル・K・ジャッドおよびアレン・W・ストッダード, “Adding and Taking Away ‘Without a Cause’ in Matthew 5：22,” *How the New Testament Came to Be*, ケント・P・ジャクソンおよびフランク・F・ジャッド・ジュニア編〔シドニー・B・スペリー・シンポジウム, 2006 年〕, 161 で引用）。

### 3 ニーファイ 12：27 - 29 肉欲を避ける

・リチャード・G・スコット長老は、愛の結果と動機、肉欲の結果と動機の両方を比較している。「主が言われた愛は、ほかの人々を高め、守り、尊重し、豊かにします。この愛は、自分以外の人のために犠牲になろうという気持ちをもたらしめます。これに対し、サタンは肉欲という偽りの愛を助長します。それは自分の欲望を満たしたいという気持ちに支配されたものです。こうした偽りの愛に欺かれた人々は、ほかの人の苦しみや滅亡などほとんど気に留めません。巧みな言葉で自分の行いを正当化してはいますが、その動機は自己満足なのです。」（『聖徒の道』1991 年 7 月号, 35）

### 3 ニーファイ 12：30 「自分の十字架を負う」

・十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）は、「自分の十字架を負う」という表現について説明しています。

「すなわち、日々十字架を負うとは、日々肉欲に打ち勝つということです。

誘惑を受けながらもそれを『心に留められ』なかった主に倣えば、わたしたちも『世の常』である誘惑に満ちたこの世にあって、立派に生きていくことができます（1 コリント 10：13）。もちろん、イエスは御自分に降りかかってきた途方もない誘惑に気づいておられました。しかしイエスはそれらをいつまでも心に留めておくことはされず、即座にそれらを退けられたのです。わたしたちも受けた誘惑に心を留め、もてあそんでいると、誘惑にもてあそばれてしまうようになります。誘惑に『心を留め』ないようにするには、そうした歓迎されない来客を門前払いにしてしまうことです。なぜならこの来客は、いったん中に入れると追い出すことが難しくなる無法者のようなものだからです。」（『聖徒の道』1987 年 7 月号, 78 参照）

### 3 ニーファイ 12:31 - 32 「出された女をめとる者も、姦淫を行うのである」

• ブルース・R・マッコンキー長老は、救い主はここでだれに語りかけておられるのか、また、現代に住むわたしたちにこの教えがどのように当てはまるのかという点について次のように述べている。

「離婚を律するこの厳格な律法は、後にマルコが説明したように、パリサイ人に与えられたものでも、一般社会の人々に与えられたものでもなく、そのとき『部屋にいた』弟子たちにだけ与えられたものだった。さらに、イエスははっきりとその適用範囲を制限された。あらゆる人がそのような高い標準に従った生活を送れるわけではなかった。その律法はその律法を与えられた者にだけ当てはまるものであった。

……その律法は様々なとき、様々な人々の間で実施されたかもしれない。しかし、今日、教会は、その律法に縛られていない。今日、教会は性的不道德行為以外にも幾つかの理由で離婚を許可している。また、離婚をしても、再婚し、福音のあらゆる祝福を享受することが許されているのである。」(Doctrinal New Testament Commentary, 第1巻, 548 - 549)

• 救い主がこう語られた目的の一つは、離婚した人と結婚する人を非難することではなく、離婚をすれば結婚で起こるささいないらだちが解決されると思わないよう教えることだったように思われる。離婚について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008 年）は次のように語っている。

「当然のことながら、結婚生活はいつも喜びにあふれているとは限りません。何年か前の新聞から切り抜いて取ってあるジェンキンス・ロイド・ジョーンズ氏の言葉を紹介しましょう。

『ドライブインシアターで手を握り合い、肩を寄せ合う多くの若者たちの間に、結婚とは、つまり永遠に若くてハンサムな夫が永遠に若く美しい妻のもとへ帰ってくる、いつも美しく咲く花々に囲まれた別荘のようなものだという誤解があるようだ。花々が枯れ、けん怠と支払い請求書がやって来ると、家庭裁判所が混雑する。……

幸せが続いて当たり前だと思っている人は、だまされたとわめきながら駆けずり回って、多くの時間を無駄に過ごしていくことだろう。』(“Big Rock Candy Mountains,” Deseret News, 1973 年 6 月 12 日付, A4) ……

……ありふれたこととは思いますが、悲しい出来事の最たるものの一つは離婚です。離婚は大きな苦しみとなっています。World Almanac の最新版によれば、1990 年 3 月までの過去 1 年間に、合衆国で推定 242 万 3,000 組の結

婚があり、同じく 117 万 7,000 組の離婚がありました (The World Almanac and Book of Facts 1991 [ニューヨーク: World Almanac, 1990], 834 参照)。

これによると、合衆国では結婚した夫婦のうち、ほぼ 2 組に 1 組が離婚した勘定になります。……

……離婚問題……の大半を占める原因は、利己心です。……

結婚する人たちの中には、いつでも万事好都合でなければならず、人生は楽しいことの連続で、節操もなく、欲望は何であれ満足させるべきだと、甘やかされて思い込んでしまっている人が大勢います。その分別を欠いた空虚な考えは、いかに悲惨な結果を招くことでしょうか。……



……大半の夫婦間のあつれきを癒す道は離婚ではありません。悔い改めです。別れることはありません。男性にとっては、自分の責任を引き受ける決心をする潔さです。それは黄金律です。……

小さな欠点は見逃し、救い、赦し、忘れようとする気持ちが大切です。

舌を制することも必要です。短気は愛情を損ない、愛をけちらす悪癖です。

妻をないがしろにするのを抑えるには、自己訓練が必要です。……

時には、正当な理由があつて離婚することもあるでしょう。離婚が絶対に悪いとは申しません。しかし、各地でなお増えつつあるこの災いは、神から来るものではなく、義と平和と真理の敵である者の働きによるものであると、はっきり申し上げます。』(『聖徒の道』1991 年 7 月号, 73 - 75 参照)

### 3 ニーファイ 12:48 「あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる」

• 現世で完全になることはできない。しかし、ジェームズ・E・ファウスト管長は、次の世で完全を得られるように、今、完全を求めなければならないと説明している。「完全は永遠の目標です。わたしたちはこの世で完全になることはできませんが、戒めに従って努力し、ついには贖罪を通して完全になれるのです。」(『リアホナ』1999 年 7 月, 21)

• スペンサー・W・キンボール大管長も、完全を目指して努

力する必要性について、次のように説明している。『『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。』(マタイ 5:48) さて、これは達成可能な目標です。完全でなければ、昇栄することも、目的地に到達することもできません。今わたしたちがにいるこの現世こそ完全を目指して歩み始める最上の時です。わたしは『完全な人なんていません』と言う人には我慢なりません。『だからどうして努力するのか』という意味が含まれているからです。言うまでもなく、ほんとうに完全無欠な人などいません。しかし、完全に至るはしごの高みまで昇る人もいますのです。』(Teachings of Spencer W. Kimball, 165)

### 3 ニーファイ 13:1 - 8, 16 - 18 義にかなった行いは隠れて行う

• 3 ニーファイのこの聖句は、貧しい人に金銭を与えるときは隠れて行うように、また、人に見られるために祈ったり断食をしたりしないように教えている。主は、義にかなった行いは隠れて行うようわたしたちに勧めておられる。トーマス・S・モンソン大管長は、人知れず行う奉仕の大切さについて説明している。



「最近ある人のお見舞いに大きな病院へ行きました。その地域の病院はほとんどが増築を行っていましたが、この病院も例外ではありませんでした。病室の番号を聞くために受付の所へ行くと、その席の後ろに、増築のために寄付をしてくれた人々への感謝の言葉を書いた立派な飾り額

が掛かっていました。10万ドルの寄付をした人の名前は特に、その飾り額にキラキラ輝く鎖でつるされた真鍮板の上に、美しい書体で刻まれていました。それも一人一人、別々の真鍮板にです。

そこに刻まれていたのは、世間に広く知られた人々の名前でした。実業界の大物、学問で身を立えた人などが名を連ねていました。わたしは彼らの慈善行為に感謝しました。わたしの目をとらえたもう1枚の真鍮板があります。それは前のものとは違って、名前が刻まれていませんでした。刻まれていたのは『匿名』のただ一言<sup>ひとこと</sup>だけでした。わたしはそれを見てうれしく思い、一体だれなのだろうかと考えました。その人はだれにも知られることなく静かな喜びを味わったことでしょう。……

1年前〔1981年〕の冬、旅客機が離陸直後に失速し、氷

の張ったポトマック河に墜落しました。このとき、勇敢で英雄的な行為が数々見られました。中でも最も劇的だったのは、救助に当たったヘリコプターの操縦士が目撃した男性の行動でした。救助用のロープがもがき苦しむ一人の生存者の所に下ろされました。ところが彼は命綱にすがろうとせず、それを他の人の体に結えたのです。その人が無事に救出されると、再びロープが下ろされました。しかし助けられたのは別の人でした。結局5人の人が氷の水の中から救われたのですが、あの無名の英雄はその中にはいませんでした。名を知られることもなく『……彼がわたしたちに残した鮮やかな印象は誉れあるものでした。』(スティーブン・スペンダー, 'I think continually of those' *Masterpieces of Religious Verse*, ジェームズ・ダルトン・モリソン編〔ニューヨーク: Harper and Brothers Publishers〕, 291で引用) ……

皆さんがこの真理〔奉仕〕を生活の指針とし、神と隣人に仕え胸を張って進んで行かれるように望むものです。ガリラヤに向けて耳を澄ましてみましょう。救い主の教えがこだましてくるのではないのでしょうか。『自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意なさい。』(マタイ 6:1) 『あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。』(マタイ 6:3) 良いことをしても『だれにも話さないように、注意なさい。』(マタイ 8:4) そうすればさらに大きな平安を得、生活は輝きを増し、豊かな心を持つことができるでしょう。

隠れた良い行いは人々の前に現れてこないかも知れません。しかしその行いとそれをした人とは神の前に覚えられますのです。』(『聖徒の道』1983年7月号, 96 - 97, 100)

### 3 ニーファイ 13:7 「無益に繰り返すことはやめなさい」

• 無益に当たる英語“vain”は「空の、つまらない、内容や価値、あるいは重要性のない」という意味である(Noah Webster's First Edition of an American Dictionary of the English Language, 1828〔1967年〕)。ほとんど何も考えたり、感じたりすることがなく習慣でささげる祈りは無益である。

「預言者モルモンは、『人が真心の伴わない祈りをするならば、……それはその人にとって何の役にも立たない。神はそのような祈りを受け入れられないからである』と警告しています(モロナイ 7:9)。祈りを有意義なものとするには、真心から、また『熱意を込めて』祈らなければなりません(モロナイ 7:48)。自分の態度と用いる言葉をよく吟味してください。』(『真理を守る——福音の参考資料』〔2004



年], 24)

・ジョセフ・B・ワースリン長老は、同じことを繰り返す祈りについて警告している。「同じような言葉を何度も同じように繰り返していると、祈りが意思の疎通というより暗唱になり、意味のないものになってしまいます。『くどくどと祈るな』と救い主が言われたのはこのことです(マタイ 6:7 参照)。」(「祈りを改善する」『リアホナ』2004 年 8 月号, 16。アルマ 34:27-28 も参照)

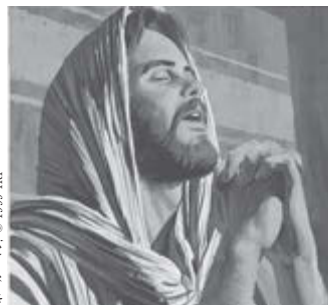
### 3 ニーファイ 13:9-13

救い主はこの聖句で効果的な祈りについて  
どのような原則を教えておられるか。

#### 3 ニーファイ 13:9-13 主の祈り

・わたしたちは主の祈りに含まれている原則を王国における奉仕の模範として用いることができる。大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、次のように教えている。

「祈りは天の御父に対する敬虔さで始まります。その後、主は王国と王国の到来について語っておられます。この教会がイエス・キリストのまことの教会であるという証(あかし)を持っている僕は、教会の発展に喜びを感じ、また王国建設のためにすべてをささげたいという望みを持ちます。



ホー・マン、© 1999 III

救い主御自身、次の祈りの言葉にあるとおりの模範(みこう)を示されました。『御心が天で行われるとおりに、地にも行われますように。』(3 ニーファイ 13:10) 全人類(しんくさい)と全世界のために贖罪を行われたときの苦難(しんべ)の中の主の祈りがそれでした

(マタイ 26:42 参照)。忠実な僕は、明らかに最も小さな務めであっても、神が望んでおられるとおりに行いますと祈ります。自分自身のためよりも救い主の業の成就のために働き、祈ることは、きわめて重要です。

その後、救い主はわたしたちのために個人の清さの標準を次のように定められました。『わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしてください。わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。』(ルカ 11:4。欽定訳から和訳) わたしたちが見守る人々に与えなければならない強さは、救い主から与えられま

す。わたしたちも彼らも、救い主から赦(ゆる)しを得るためには赦さなければなりません(マタイ 6:14 参照)。わたしたちも彼らも、救い主の守りと、救い主の贖罪によってもたらされる心の変化によって、清さを保つことを望むことができます。常に聖霊(はんりょう)を伴侶とするには、この変化が不可欠です。……

皆さんは主の奉仕の業にあつて自信を得ることができません。救い主は皆さんが召された務めを果たすのを助けてくださいます。教会の奉仕者としての一時的な務めでも、あるいは親としての永遠の務めでもです。皆さんはその務めを果たすうえでの助けを祈り求め、それが得られるのを知ることができます。』(『リアホナ』2000 年 7 月号, 81)

#### 3 ニーファイ 13:19-24 「自分のために……地上に、宝を蓄えてはならない」

・エズラ・タフト・ベンソン大管長は、この世の宝の持つはかない性質について次のように語っている。

「わたしたちは時に、いつかは朽ちてしまう取るに足りない事物に、あまりにも執着しすぎることがあります。この世の宝は人生という学校にいる間、教室と黒板を提供してくれるにすぎないものです。わたしたちは、金、銀、家、土地、蓄え、家畜、その他の所有物があるべき位置に置かなくてはなりません。

この世は仮の住みかです。わたしたちは、永遠に向かう第一のレッスン、すなわち主の福音の計画に対する従順を学ぶために、この世にいるのです。』(『聖徒の道』1972 年 4 月, 155 参照)

・十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、自分のために蓄える宝について次のような洞察を与えている。「救い主は地上に宝を積まず、天に宝を積むように教えられました(マタイ 6:19-21 参照)。偉大な幸福の計画の究極的な目的から考えると、地上と天における最も大切な宝はわたしたちの子供と子孫であると、わたしは考えています。』(『聖徒の道』1994 年 1 月号, 84 参照)

#### 3 ニーファイ 13:34 「明日のことを思い煩ってはならない」

・モルモン書は、イエスが山上の垂訓のこの部分に関してニーファイ人の十二弟子に語られたことを指摘することで、マタイ 6:25-32 の意味を明らかにしている(3 ニーファイ 13:25-34 参照)。イエスは十二弟子にこの指示を出された後で、もう一度群衆に向かって話し始められた(3 ニーファイ 14:1 参照)。山上の垂訓を通して、イエスがこの二つの聴衆の間で何度も対象を変えながら話しておられる点に注目するとよい。

### 3 ニーファイ 14:1-2 裁く

・ダリン・H・オックス長老は、義にかなった裁きとそうでない裁きの違いを説明することで、3 ニーファイ 14:1-2 の意味を明らかにしている。その後、オックス長老は義の原則について次のように概説している。

「聖典には、裁いてはならないと命じる聖文がある一方で、裁きの必要性、さらには、その方法まで教える聖文もあります。わたしはこの問題で頭を悩ませてきました。しかし、これらの聖文を研究するうちに、矛盾しているように見えるこのような指示にも、永遠という観点から眺めれば、一貫性があることを確信するようになりました。大切なのは、裁きには、わたしたちが禁じられている決定的な裁きと義の原則に基づいて行うようにと指導されている中間的な裁き、これら2種類の裁きがあるということを理解することです。

第1に、義にかなった裁きは、本質的に、中立の立場でなければなりません。……

第2に、義にかなった裁きは、怒り、復讐心、あるいは私利私欲ではなく、主の御霊によって導かれます。……

第3に、義にかなった者となるためには、自分が管理する職の権限内で、中立の立場での裁きを行わなければなりません。……

第4に、できれば、事実に関する十分な知識を得るまでは裁かないようにすべきです。」(“Judge Not” and Judging,” *Ensign*, 1999年8月号, 7, 9-10)

### 3 ニーファイ 14:7-8 祈りを通して尋ねる

・ジェームズ・E・ファウスト管長は、祈りを通して天の御父に近づくためにわたしたち一人一人に与えられている賜物と特権について証をしている。「救い主を通してわたしたちの創造主に近づくことは、間違いなく、人生における大いなる特権であり祝福です。……この世のいかなる権威も、創造主にじかに近づく道を閉ざすことはできません。祈りには、機械や電子部品のような故障はまったくありません。毎日何回祈っても、いくら長く祈っても制限はありません。また、祈りの中で願いは幾つまでと決められているわけでもありません。恵みの御座に近づくのに秘書を通してたり約束を取ったりする必要もありません。いつでもどこでも、神と会話することができるのです。」(『リアホナ』2002年7月号, 62 参照)

### 3 ニーファイ 14:12 黄金律

・ラッセル・M・ネルソン長老は、黄金律を引用し、次のように述べている。

「主は黄金律をお教えになりました。『何事でも人々から

してほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。』(マタイ 7:12) この原則は、おもな宗教のほとんどすべてに見ることができます。孔子やアリストテレスといった人々も教えています。結局、福音はベツレヘムでの幼子の降誕によって始まったものではないのです。それは永遠のものです。それは初めにアダムとエバに宣言されました。福音は部分的に多くの文化に残っています。異教徒の神話にさえも、昔の神権時代からの真理の断片が随所に残っています。

たとえどこでどのように表現されていようと、黄金律には神の王国の道德規範が網羅されています。それは人が他人の権利を侵害することを禁じています。それは国家、団体、個人が等しく従うべきものです。それは、『目には目を、歯には歯を』(マタイ 5:38) という報復的な態度を、哀れみと忍耐に取って代えてくれます。もしその昔ながらの無益な道にとどまるなら、わたしたちは目も歯も失ってしまうことでしょう。」(『リアホナ』2002年11月号, 39 参照)

### 3 ニーファイ 14:15-20

この聖句の象徴は、自分は預言者であると主張する人々について何を教えてくれるか。

### 3 ニーファイ 14:15 「偽預言者に気をつけなさい」

・十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、偽りの教義を教えたり、出版したりする人たちに次のような警告を与えている。「偽預言者と偽教師である男女に注意しましょう。彼らは、自分勝手に教会の教義を説き、教会の基本原則を覆そうとする内容のシンポジウム、書物、および専門雑誌を提供することによって、誤った教義を広め、仲間を集めようとしています。神の真の預言者に反することを語り、それを公表する人々に注意してください。また、自分たちがそそのかそうとしている人の永遠の幸福については関心を示そうとしない熱心な伝道者たちにも気をつけてください。……彼らは『利益と世の誉れを得るために、説教をして自分自身を世の光と〔して〕、シオンの幸いを求め……ない』のです(2 ニーファイ 26:29)。」(『リアホナ』2000年1月号, 74)

### 理解を深めるために

- ・良いことを喜んでやることと嫌々ながらやることとはどう違うだろうか。
- ・「まず神の王国」を求めているかどうか判断するために、自分の行動の動機を分析する(3 ニーファイ 13:33)。

### 割り当ての提案

- 山上の垂訓の中の思い出せるだけたくさんの教えについて、ほかの言葉で言い換える。その後、3 ニーファイ 12: 3 – 12 を調べて自分の言葉と比較する。
- 自分自身の正しくない思いや望みをより完全に捨て去るためには何をする必要があるだろうか。それをどのように達成するかについての計画を書き出す。